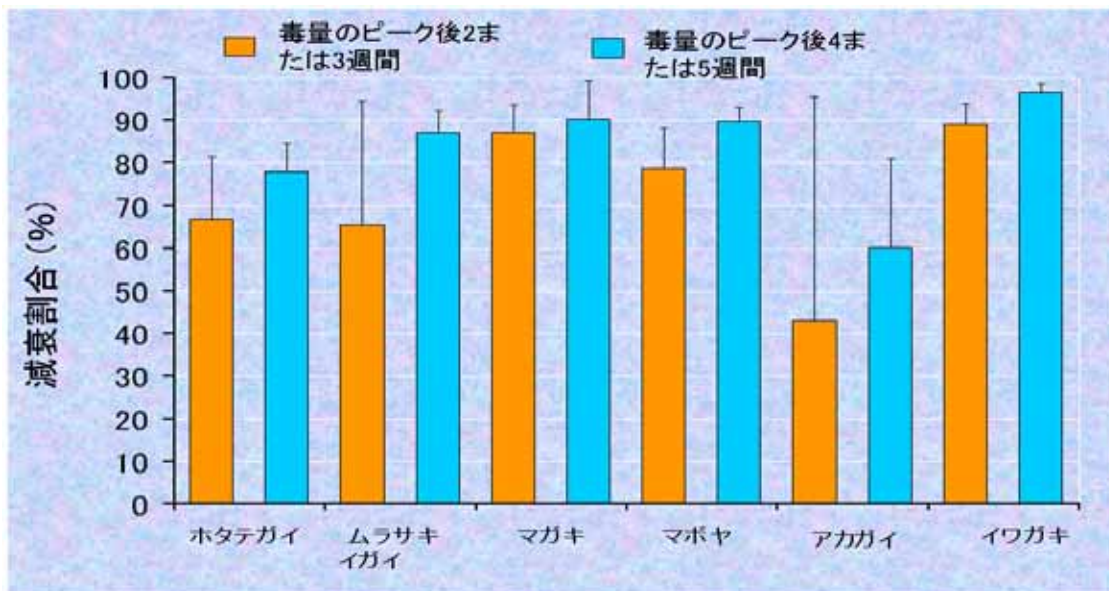


毒化した二枚貝類及びマボヤの毒量減衰について	
ねらい	貝の種類による麻痺性貝毒の成分組成の差異が毒の減衰と関連性があるのかを知ること。
成果の特徴	毒化した二枚貝等の減衰速度は、イワガキ, マガキ, マボヤ, ムラサキガイ, ホタテガイ及びアカガイの順で早かった。 毒成分組成と毒の抜けやすさ・抜けにくさの間には明瞭な関連は見出せなかった。
成果の活用面	出荷の早期再開に向けた現行の貝毒通達の見直しにつながるものと思われる。

[具体的データ]

1998, 2000 及び 2001 年の 3 ヶ年に *Alexandrium tamarense* により毒化した二枚貝類及びマボヤについて比較検討した。その結果, 生物種別の毒蓄積では高毒化のグループにホタテガイ及びムラサキガイが, 一方低毒化のグループには, マガキ及びアカガイがそれぞれ区分され, マボヤおよびイワガキはこれらの中間グループに区分された。

生物種別の減衰はイワガキ, マガキ, マボヤ, ムラサキガイ, ホタテガイ及びアカガイの順で早かった。生物種別の毒成分組成では各生物種の主要毒成分は GTX1+4 及び GTX2+3 であり, これらに少量の C1+2 および STX 群が混在していた。毒成分組成毎の毒の抜けやすさ・抜けにくさの間には明瞭な関連は見出せなかった。



担当者 漁場保全部 専門研究員 加賀新之助 0193-26-7919 FAX0193-26-7920
 連絡先 〒026-0001 岩手県釜石市大字平田第3地割75番3号
 ホームページ <http://www.pref.iwate.jp/~hp5507/>